

## 本研究の背景とテーマにかける私たちの願い（テーマ設定の理由）

- 普段から大きな声であいさつをするように心がけている。職場体験先でも大きな声のあいさつをほめられて自信がたった。
- 職場体験で敬語を使うことができなかった。国語の時間に勉強した気でいたけれど実は使えなかった。もっと国語を勉強しなければ……。

本校の生徒は、平成18年度より、5日間の職場体験学習を行っている。体験を終えた生徒は、上に示したように、体験を通して学びの意義を実感したり、新たな学びの課題をつかんだりした。そこには、社会生活と関連させながら、自己の学びや学校生活をとらえようとする生徒の姿が見られる。

世界を広く見渡してみると、平成9年にプログラム「コンピテンシーの定義と選択」をスタートさせたOECDは、『キー・コンピテンシー』を定義し、「世界標準の学力」としてその実現を世界に問うた。「社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力」「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」「自律的に行動する能力」として示される『キー・コンピテンシー』は、今回の学習指導要領の改訂において引き続き充実がめざされる『生きる力』と通底している。『生きる力』の育成と世界標準の学力である『キー・コンピテンシー』を踏まえて改訂された新しい学習指導要領は、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう課題に柔軟にたくましく対応しながら自立の力を養うこと、また、社会で生きて働く力を育むことがめざされている。

一方、キャリア教育の充実に目を向けてみると、文部科学省は、平成18年に「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」を作成した。そこには、望ましい勤労観・職業観の形成や社会に貢献していく態度と時代の変化に適切に対応するために必要な基礎的・基本的な資質と能力が、4領域8能力にまとめられている。私たちは、この4領域8能力を基に、本校独自の『西中キャリア能力表』を開発し、研究を進めてきた。

私たちは、この『西中キャリア能力表』を手がかりに日々の学習や学校生活を見直し、教育活動全体で取り組むことを心がけ、深いところから生徒のキャリア能力を育むことをめざしてきた。このキャリア能力を育むことで、現在求められている『生きる力』や『キー・コンピテンシー』にも迫ることができるであろうと考え、研究テーマを次のように設定した。

### 明日の自分をつくる この学び —『西中キャリア能力表』を基にした教育活動の推進—

私たちは『この学び』ということばに、一瞬一瞬の学習や生活を大切にしてほしいと願うとともに、テーマ全体に対して、生徒が日々の学習や学校生活に自己の将来と関連させながら取り組むことで、「将来に夢や希望をもち、主体的に自己の将来を切り拓いてほしい」「社会の中で自立できるたくましい資質や能力を身につけてほしい」という願いを含めた。

以上の考えを職員の共通理解とし、教科・道徳・総合的な学習の時間のみならず、学校生活全般を視野に入れ、全校体制によってキャリア教育の研究を進めていくことにした。